

安全の手引き

～緊急事態対処マニュアル～

(リヨン市及びオーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏)

令和8年4月10日

在リヨン領事事務所

I	序言	2
II	防犯の手引き	
1	一般治安情報	4
2	外出先での安全対策	6
3	住居の安全対策	10
4	テロ対策	12
5	トラブル対策	12
6	緊急連絡先	15
7	トラブル時のフランス語	16
III	在留邦人用緊急事態対処マニュアル	19
IV	結語	22

I 序言

フランス内務省が発表した2025年のフランス全国犯罪統計によると、暴行傷害、家庭内暴力、性暴力、非武装強盗、窃盗、違法薬物使用・密売等の指標が増加しました。

在リヨン領事事務所が管轄しているオーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏においては、前年と比べ暴行傷害、家庭内暴力、性暴力、武装強盗、非武装強盗、窃盗、詐欺、違法薬物使用・密売等ほとんどの指標で増加しました。また、「食の都」であるリヨン市が県庁所在地であるローヌ県では、2025年中は多くの指標が増加していますが、特に武装強盗（前年比38.8%増）、非武装強盗（前年比66.1%増）が大幅に増加しており、窃盗（前年比12.1%増）と治安は悪化傾向にあります。

また、フランスにおける2012年以降のテロ事件による死亡者は累計で275人と公表されており、負傷者も数多く出ています。2023年10月にはフランス北部パ・ド・カレー県の高校で教師ら数名を殺傷する事件が発生し、同年12月にはパリ市内エッフェル塔周辺の路上において、通行中の外国人等複数名が刃物により殺傷される事件が発生しました。2025年2月には、フランス東部のミュールーズ市の路上で外国人等複数名が刃物により殺傷される事件、2026年3月にはパリ市に所在するバンク・オブ・アメリカ・パリ支店で液体燃料を使った爆発未遂事件が発生しています。

現在もフランス政府はテロ警戒計画（Plan Vigipirate）を3段階中最高の3番目を維持しています。テロ事件やトラブルに巻き込まれないために、最新の治安・テロ情勢等の情報入手に努め、日頃から安全対策を講じた行動をするよう心掛けてください。

海外に渡航・滞在される際には、国内で生活している時とは異なる心構えが必要です。緊急時の安否確認等のため、海外に渡航される方は「たびレジ」に登録を、3か月以上滞在される方は在留届の提出をお願いします。

- 外務省海外旅行登録「たびレジ」（3か月未満の渡航の方）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

- 在留届（3か月以上滞在される方）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

- スマートフォン用海外安全アプリ

http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html

- 在リヨン領事事務所ホームページ

https://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

- 在リヨン領事事務所 Facebook：

<https://www.facebook.com/japon.consulat>

1 テロへの注意～海外安全情報のチェック～

海外に渡航・滞在される方は、その計画段階から渡航先・滞在国に発出されている海外安全情報をよく確認し、自らの安全確保に努めてください。特にテロの標的となりやすい場所（デパート等の不特定多数が集まる場所、公共交通機関、ホテルなどの宿泊施設、ビーチ等のリゾート施設、観光施設、政府・軍・警察関係施設）を訪れる際には、まず非常口を確認し、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知した場合には、速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。

2 「目立たない」自己防衛

日本人として狙われないためにはどうしたら良いのでしょうか？日本人が狙われやすいという点から引き出される一つの教訓は、とにかく「目立たない」ということです。これは自己防衛の一つの手段として重要なことです。同じ日本人でも長年現地に住む駐在員より、観光客の方がよく目立つことは知られています。外出する際、いかにも観光客と分かるブランド品やアクセサリーなどは身につけない方が無難です。

3 自分の身は自分で守るという意識を持つ

「世界に100%安全なところはない」という前提に立ち、「自分の身は自分で守る、自分の家族は自分たちで守る」という意識を持って、日頃から情報収集に努め、適切な安全対策を講じることが重要です。

4 家族の防犯対策

普段から家族の安全に対する意識を高めることは重要です。子供にも安全対策について話しておくことが大切です。例えば、見知らぬ人に話しかけられた時の対応、来訪者に対する対応、電話対応時の注意、両親が不在の時の注意事項などを教えておくといいでしょう。フランス内務省は、位置情報が記録されるヨーロッパ共通の緊急電話番号112番を、緊急時に携帯電話からかけられる番号として子供に覚えさせるよう推奨しています。子どもは親の行動を見ているので、親が普段から安全に対する模範となるよう心がけましょう。また、テロや誘拐対策として、家族の行動パターン化にもご注意ください。

5 身近な情報を活用する

自分が住む地域の「現地情報」は、家族の安全に直接関係する大切な情報です。最寄りの大使館や総領事館のホームページやメールをチェックし安全情報を入手するほか、地域の日本人向け情報誌などに目を通すなどの情報収集が重要です。そういった公の情報のほか、「口コミ情報」を生活防衛に有効に生かすことも大切です。スリの多いスーパーマーケット、ひったくりの多い地下鉄など、生活者でなければ知ることのできない情報が役に立つこともあります。その場合、日本人の間だけで交わされる「うわさ」に惑わされず、地元の新聞、テレビ及びラジオの報道、現地の人の情報や意見を聞くことも重要です。アンテナを張りめぐらし、複数の情報源からより正確な情報を把握する習慣を身につけると良いでしょう。

II 防犯の手引き

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏の邦人数は約3,600人です。そのうち約1,400人がリヨン市及びその近郊都市に居住していることから、本項ではリヨン市における治安情報を取り扱います。なお、グルノーブル市、サン・テティエンヌ市、クレルモン・フェラン市、シャモニー・モンブラン市などの中核都市でも、リヨン市に比べ件数は少ないながら同様の事件が発生しています。

1 一般治安情報

(1) 犯罪発生状況

ア 空き巣

ローヌ県では、特にリヨン市2区、6区、ヴィルールバンヌ市など、発生件数の多い地域もありますが、空き巣はどの地区・地域でも起こりえます。特に各バカンス時期に発生件数が増加しており注意が必要です。空き巣は侵入できそうな家を日頃から観察しており、雨戸やカーテンが数日間にわたって閉まっている場合には留守だと気づかれます。バカンスで長期間にわたり自宅を留守にする際には、レースのカーテンのみを閉める、インターネットを活用して遠隔地から自宅の間接照明やテレビをオンにするなどの工夫が必要です。また、固定電話にかかってきた電話を携帯電話に転送する、新聞や郵便物を隣人に預かってもらうことも空き巣を防ぐ有効な手段の1つです。不必要にバカンスの予定をSNSで公開・共有することも避けましょう。

バカンス時期以外で空き巣を防ぐ日頃の対策として、玄関マットの下、郵便受け、玄関脇にある花壇の中などに鍵を隠さないようにしましょう。必要であれば信頼のおける人に預けるのが良いでしょう。住居が公道からアクセス可能な場合、夏に窓を開けたまま寝るのも危険です。

イ 強盗、ひったくり

リヨン市内では、携帯電話やバックなどのひったくり、スリ、置き引き、身に付けている貴金属（金のネックレス）を引きちぎるという事件が多発しています。また、強盗は、繁華街や列車駅などの若者が集まる地域、酔っ払いが多く集まる地域で発生件数が高い傾向があります。

日本人被害で最も多いのはスリ被害です。スリはグループ（見張り、注意を引く役、実行犯、壁役等）により行われるケースが多く、窃盗犯は親切心を装ってエレベータに誘導したり、好意的に話しかけてきたり、エスカレーターや公共交通機関入り口でもたついたり、あらゆる手段を使って被害者の気をそらし犯行に及びます。見知らぬ者から声をかけられた際は警戒を強め、手荷物は体の前面で所持する等注意してください。

帰宅の際、あとをつけられていて、自宅の玄関を開けた瞬間に背後から押し入るといった犯行も届けられています。自宅玄関に入る前にも周囲に十分配慮する必要があります。

邦人被害例：https://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/itpr_ja/theft_alert.html

ウ 自動車窃盗、車上荒らし

フランス内務省が発表した2025年犯罪統計によれば、リヨン市を含むローヌ県では、自動車窃盗は前年に比べ減少したものの、車上荒らしは前年比16.4%と大幅に増加しています。

複数の人が出入り可能なマンション地下の駐車場や閉鎖可能なBOX型駐車場でも窃盗事件が起きています。シャッターが閉まっているからと安心せず、車を離れる際は必ず施錠し、車や駐車場に貴重品を置かない等の対策を行ってください。

エ 違法薬物関連事件

リヨン市及び周辺都市、グルノーブル市、ヴァランス市などでは、違法薬物の密売・使用が多発しています。これらの取引に伴う密売組織間の抗争では、自動小銃や手榴弾などが使用されており、抗争とは関係のない市民が巻き込まれ死傷する事件も発生しています。銃撃戦等に遭遇した場合には、まずは身を伏せて安全を確保するとともに、銃声と反対方向を目指し低姿勢をとりながらその場から速やかに離れるようにしてください。

(2) 主な犯罪発生地域

ア リヨン・パールデュエ駅、ペラシュ駅構内

掲示板を見ている際に置き引きに遭わないよう自分の持ち物に注意を払ってください。スーツケースの上に手提げ鞆を置いて掲示板を見ている一瞬の隙に手提げ鞆が窃盗される事件が発生しています。また、鉄道や地下鉄のチケットを買う時に後ろを付けられていないか注意を払うことも肝心です。

イ ヴォー・アン・ヴラン・ラ・ソワ駅

ローヌエクスプレスから地下鉄A線に乗り換える際に、窃盗グループによるスリ（旅行者をエレベータに誘導した後複数名で旅行者を囲み財布等を窃盗）の被害が多発しています。ヴォー・アン・ヴラン・ラ・ソワ駅関係者によれば、特にアジア系旅行者がスリのターゲットになっている模様ですので、注意が必要です。

ウ ホテル内

朝食時のカバンの置き引き、部屋の戸締まりが不十分である場合の窃盗被害が発生しています。

エ 観光スポット（レピュブリック大通り、テロー広場、ベルクール広場、サンジャン教会近辺、フルビエール教会近辺等）

外国人旅行者が集まる観光スポットでは、置き引き、ひったくり、スリの被害が多発しているほか、ドラッグ使用の若者による暴行事件が発生しています。

オ パールデュー・ショッピングセンター

リヨン市3区にある同ショッピングセンターには若者が集まり、スリ、置き引きが発生しており、巻き込まれないよう注意が必要です。

カ サンテグジュペリ国際空港

空港警察によって比較的厳重な警備体制がとられ、犯罪等への対応は迅速に行われていますが、TGVの運行増加や低コストのチャーター便の運航増加による観光客の増加に伴い、盗難、置き引きなどの犯罪被害の増加が懸念されています。

キ ギョチエール地区

日中でも不法移民がたむろし、タバコやドラッグ等の違法販売が横行しており、喧嘩、スリや暴行事案も多発しています。

ク ヴィルールバンヌ市トンカン地区

在リヨン領事事務所が所在するトンカン地区では、違法薬物の取引を巡る銃撃事件が多発しています。2024年12月には違法薬物取り締まりのための部隊が配置されましたが、その後も違法薬物の取引を巡る銃撃事件は発生していますので、建物の前や通りで客を待つ売人らしき人物に近づかないよう引き続き注意が必要です。

2 外出先での安全対策

在留邦人の皆様は、スリ、ひったくり、置き引きなどの犯罪被害には、日頃から十分に注意されていると思います。一般的には、貴重品はなるべく携行せず、現金等は分散して所持することが必要ですが、これらに併せて以下の点にご注意ください。

被害に遭わない秘訣1：スキを作らない

犯人はあなたの行動を見てスキがあるかどうかを判断します。

- ① おしゃべりに夢中になる。
- ② ショッピングに気をとられる。
- ③ 両手に買い物袋などを持つ。
- ④ バッグの口が開いている（荷物の中身を盗りやすい）。

- ⑤ 荷物を置いたまま離れる。
- ⑥ ベबीカーを押している人も要注意です。

防止策 スキを作らないようにすることは簡単ですが、これを持続することは大変です。在留邦人の皆様の中には、市場でスリに遭われる方も大勢いらっしゃいます。人混みでは一瞬気が散るなどスキが出来てしまいますので注意が必要です。

被害に遭わない秘訣 2 : 1分1秒、2分2秒、3分3秒

1分の間に1秒だけだったらできるはずです。

常にスキを作らないよう気を配るのは大変です。今いる場所の危険度に応じて、間隔を開けてもいいので、1分に1秒、2分に2秒、3分に3秒だけ、自分にスキがないか振り返ってみてください。

- ① バッグに手を添える。
- ② ポケットに手を当ててみる。
- ③ チャックが閉まっているか調べる。
- ④ 歩いている場所が危険ではないか注意する。
- ⑤ 怪しいバイクが周囲にいないか振り返るなどして確認する。

危険信号 1 : スキを作られる

あなたがスキを見せなくてもスキを作られることがあります。

- ① エスカレーターで物を拾うふりをして立ち止まる。
(後ろにいるあなたがそれに気を取られている間に、さらに後ろにいる仲間が物を盗る)
- ② 時間や道を尋ねて話しかける。
(話しかけてきた人に気を取られている間に仲間が物を盗る)
- ③ 周りを取り囲んでしまう。
(注意する人が多くて気が回らない)

防止策 スキを作られそうになったときは、相手の手にのらないでやり過ごすことです。前の人が立ち止まる、話しかけられるなど、誰かにスキを作られそうになったら「荷物を抱える」ことが大切です。まずは落ち着いて荷物を確保しましょう。

危険信号 2：オートバイによる、ひったくり

オートバイによるひったくりは非常に危険です。

防止策 歩道を歩くときは建物側を歩き、バッグなどは建物側の手で持ちましょう。また、バッグを盗られないようにしっかり持っていたため、引きずり倒されて打撲、骨折をした人もいます。できるだけ盗られないように注意することは勿論ですが、盗られてしまったら、自分の身の安全も考え、バッグから手を離すことも必要かも知れません。

危険信号 3：車に関する盗難（自動車盗難又は車上狙い）

- ① 駐車した車を盗まれる。
- ② 車中に置いた物を盗まれる。

渋滞中や赤信号で停車していると、突然ドアを開けられたり、窓ガラスを割られたり、膝や座席の上に置いたバックの盗難に遭うという例も発生しています。

防止策 車を駐車するときは、① 短時間であっても鍵をかける、② 外から見える場所に物を置かない（荷物は極力トランクに入れる）、③ 渋滞や赤信号で停車した際には周囲に十分注意する。

危険信号 4：睡眠薬を使用した犯罪

睡眠薬はたとえ少量であっても大変危険です。

観光名所を散策中、欧米系の男性から英語で話しかけられ、チョコレート、アイスクリームなどを勧められるまま口にしたところ、突然意識を失い、気がついた時には所持品を盗まれていたといったケース、カフェで飲食中に流暢な日本語で話しかけられ、相手の勧めに応じてビールを飲んだところ、意識を失い、女性が暴行されるといったケースもあります。

防止策 むやみに見知らぬ人から飲食物を勧められても、断る勇気が必要です。

危険信号 5：偽の肩書きを使った詐欺被害

警察官が公道上で財布等の提示を求めることはありません。

警官、消防署職員、警備員、配管工などの偽の肩書きを名乗って複数の犯人が家に入り込み、1人が家主の注意を引いている間に、共犯者が貴金属などを盗むという犯罪が発生しています。警察が注意を促しているにも関わらず、高齢者を標的にしたこの種の狡猾な犯罪は後を絶たちません。リヨン市に限れば特に3区及び6区といった比較的裕福な住人の多い地区が狙われやすいようです。

歩行中、私服警察官を称する男性が近寄り、偽札の検査をしているとして財布の提出を求められたため、一時的に財布を渡した。その後、財布の返還を受け中身を確認したところ、紙幣が抜き取られていた。また、散策中に地図を持った男性が近寄り、道を尋ねられたため対応していたところ、麻薬の捜査をしているとして警察官を名乗る男が近寄り、財布の提示を求められた。最初に話しかけてきた男も財布を渡していたので自分も財布を渡した。その後中身を確認したところ、紙幣が抜き取られていたといった偽警察官による被害もあります。

防止策 接触してきた人物の身分証明書を良く確認しましょう

- ① 見なれたユニフォームを着ていても、必ず身分を確認できる証明書の提示を求めましょう。
- ② 電話でその任務が存在するのかどうかを確かめるくらいの用心をした方がよいでしょう。
- ③ 特に口実をつけて家の内部に侵入しようとする人物には要注意です。
- ④ 一度ドアを開けてしまえば、無理やり侵入してくる恐れがあるので、見知らぬ訪問者には決してドアを開けないようにしましょう。
- ⑤ 地図を広げ、道を尋ねる外国人らしき人物から話しかけられた場合、先ず警戒し、断ってもしつこく話しかけてくる場合には速やかに立ち去りましょう。
- ⑥ 私服警察官やデザイナーを装う不審な人物には注意しましょう。

危険信号 6：公共交通機関内におけるスリ被害

犯罪者は常にあなたの行動を観察しています。

リヨン市内は公共交通機関（地下鉄（メトロ）、トラム、バス）が発達しており、移動手段としての利便性も高く、多くの在留邦人や日本人観光客も利用していますが、駅や車内でのスリ被害が多発しています。公共交通機関車内ドア近くに立って携帯電話を見ていたら、ドアが閉鎖する直前に携帯電話を取られ逃げられるケース、公共交通機関に乗車した際、数人の子供（或いは女性）に取り囲まれ、身動きを取れなくされた上で気がついたらバッグの中から財布を盗まれているケース、駅のホーム

で男性から「背中が汚れているので上着を脱いだ方が良い」と促され、その汚れを拭いている際に足下に置いたバッグを取られ、走って逃げられる等のケースもあります。

防止策 被害の多くは混雑時の公共交通機関内、或いは駅ホーム上で発生しています。以下の注意事項を参考に安全対策に心がけてください。

- ① ハンドバッグ等は、留め具やファスナーをしっかり閉め、ファスナー部分を内側にして体の正面でしっかり持つ。
- ② パスポートや財布等の貴重品は内ポケットに入れ、ズボンの後ろポケットなど他者が容易に見える状態にはしない。
- ③ 公共交通機関車内のみならず駅構内でも常にバッグ等の所持品に気を配る。携帯電話をチェックする時は必要最小限に抑え、周囲に注意を払う。
- ④ 犯人の多くが女性や子供の集団です。子供が集団でスリなどの犯罪行為を行うとは日本ではあまり考えつかないことですが、相手が子供だからと油断せず、むしろ子供や少女の集団に遭遇したら、警戒度を高めるくらいの意識が必要です。

危険信号 7：カージャック

武器や暴力を伴ったカージャックでは、抵抗すると刃物等で攻撃される可能性もありますので、犯人の要求に従うことが身を守ることにつながります。駐車中の自家用車には市販の盗難防止システムを利用することが推奨されます。

防止策① 信号待ちしているときなども近づいてくる人には警戒しましょう。

② 抵抗しないようにしましょう。命の危険につながる可能性があります。

③ 高級車は盗難の標的になる可能性が高いですので、防犯システム（遠隔操作の可能なGPS等）が推奨されます。

3 住居の安全対策

（1）住居選び

リヨン市内及び郊外では、どの地区でも空き巣犯罪が発生しています。住居選択の際には以下を予め確認することが推奨されます。

- ① 入居しようとする住宅が安全な地域かどうか（入居前に地区の犯罪発生件数等について確認しましょう）。
- ② アクセスが困難か（建物の出入口のセキュリティー、各フロアのセキュリティー、駐車場へのアクセス）。

- ③ 来訪者をテレビカメラ・インターフォン等で部屋から確認できるか。
- ④ 管理人または警備員が常駐しているか。
- ⑤ 玄関扉等が頑丈か（素材、鍵の数、チェーン錠、覗き穴）。
- ⑥ 窓（侵入を防ぐ構造となっているか、雨戸はあるか）。
- ⑦ 鍵の変更が可能か。

（２）生活上の注意

- ① 見知らぬ人物をドアの内側に絶対に入れない

不審な人物が来訪した場合には決して扉を開けず、内部のチェーン錠を掛けて対応することが重要です。また、外出する際は、窓からの進入を防ぐよう戸を閉め、短い時間でも雨戸を閉めることが推奨されます。

- ② 鍵を手にするタイミングを見計らう

外出先から自宅玄関前に来て初めてバッグから鍵を探り出すのは非常に危険です。外出先からの家人の帰宅時を狙った強盗被害が発生しており（バッグの中の鍵を探す際に注意力が散漫となる）、予防策としては予め玄関に着くまでに鍵を手にし、周囲を注意した上で玄関の鍵を開けるようにしてください。

- ③ 長期間留守にする場合の注意（上記１（１）ア「空き巣」も参照ください）

長期間家を空ける場合は、大切なものは自宅に置かないことが、予防策につながります。高価な貴重品がある場合は銀行の貸し金庫などの信頼できる場所に保管してください。郵便物がたまらないよう、転送サービスなどを利用してください。また、隣近所からの通報が、犯人逮捕のきっかけとなることが多いですので、普段からのご近所づきあいが肝心です。

- ④ 住宅保険加入

フランスでは住居契約の際、損害保険への加入が義務づけられていますが、家主側が保険について詳しくない場合もあり、退去時に高額な請求をされる可能性もありますので注意が必要です。しっかりした不動産業者を介して、マルチ・リスクに対応した保険への加入が推奨されます。

4 テロ対策

イスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けているとみられる者による一匹狼（ローンウルフ）型のテロや誘拐等が世界各地で発生しています。今後も同様の事件が発生する可能性は否定できず、日本人・日本権益が標的となり、テロを含む様々な事件の被害に遭う恐れがあります。

つきましては、海外に渡航・滞在される方は、上記のようなテロ情勢に十分留意し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないよう、外務省が発出する海外安全情報及び報道等により、最新の治安情勢等の関連情報の入手に努めるとともに、日頃から危機管理意識を持つよう努めてください。

テロ等から身を守る注意点

- ① 一連のテロ事件が特に交通機関を狙い多く発生していることから、交通機関を利用する場合には身の回りの不審物に十分注意する必要があります。また、人の多く集まる場所（繁華街、ショッピングセンター、駅等）においても注意を怠らないようにしましょう。
- ② 爆弾テロに遭遇した場合は、落ち着いて行動を取り、窓ガラスなどから離れ、爆風によるガラス片などが降りかからない壁際の床や机・ベッドの下などに伏せ、潜り込むこと。爆発音がおさまってから周囲を警戒しながら避難をしましょう。
- ③ 自動小銃などの銃声が聞こえた場合には、直ぐ地面に伏せること。そして、射撃音の方向を確認した上で、射撃音と反対方向を目指し、低姿勢をとりながら現場離脱を図りましょう。
- ④ 不審物を発見した場合には不用意に近づくことは避け、「触れるな」「踏むな」「蹴飛ばすな」の三原則を守りましょう。
- ⑤ フランス国内でテロ事件が発生した場合、国内の主要都市、空港、駅、国境において治安当局の警備が強化されるので、現場で警戒・警備を行っている官憲から指示を受けた場合は、安全確保の観点から、その指示に従うようにしてください。
- ⑥ 日頃より、新聞やテレビ等の報道に耳を傾け、滞在地の治安情勢に十分配慮し、外務省の発出するテロ情報など最新情報の入手に努めましょう。

5 トラブル対策

（１）盗難被害に遭ったら

直ちに最寄りの警察署に赴き、被害届(Récépissé de Déclaration de Plainte)を発行してもらいましょう。パスポートの再発行手続には、被害届の提示をお願いしています。また、加入されている海外旅行保険に盗難被害の申告する際にも同届が求められることがあります。

被害届作成依頼書フォームは、下のアドレスよりダウンロードできます。

★ https://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/jp/pdf/Demande_de_declaration_de_plainte.pdf

この依頼書は、警察署で被害届を作成してもらうための書類です。できる限り詳しく、被害状況を記入するようにお願いします。住所、氏名等はローマ字でご記入ください。

「被害届を作成してください。」はフランス語で次のとおりです。

Je vous prie de bien vouloir établir un Récépissé de Déclaration selon le rapport écrit
ci-dessous (ジュ ヴ プリ ドゥ ビヤン ブロワー エタブリー アン レセピセ ドゥ
デクラハシヨン スロンル ハポー エクリ スィ デス)

(2) パスポートの盗難

盗難や紛失などでパスポートを無くしてしまった場合には次の二つの方法があります。

- ① 盗難・紛失に伴うパスポートの新規発給
- ② 「帰国のための渡航書」の発給

在留邦人の皆様は、基本的にはパスポートの発給を希望されると思いますが、発給には時間を要しますので、他国に赴くことなく日本に直接帰国される場合には、「帰国のための渡航書」にて帰国することが可能です（「帰国のための渡航書」とは、日本に帰国するためだけに使用するパスポートに代わる書類です）。

※ パスポート、帰国のための渡航書の発給には以下の書類が必要です。

- i 申請書（来館時に記入）
- ii 警察の被害届証明書 (Récépissé de déclaration de plainte)
- iii 戸籍謄本（6か月以内に発行）又は電子戸籍パス
※「帰国のための渡航書」は戸籍謄（抄）本又は本籍地が記載された住民票など本籍地が確認できる書類でも可
- iv 写真2葉（縦4.5 cm×横3.5 cm）6か月以内に撮影したもの
- v フランス滞在許可証の提示（邦人旅行者を除く）
- vi 日本への航空券（航空券予約証明書）※「帰国のための渡航書」の申請の場合のみ

(3) クレジットカードの盗難

クレジットカードを盗られた場合、早急に使用停止の手続きを取りましょう（この手続きは、本人以外ではできませんのでご注意ください。また、以下に案内する番号は、コレクトコール可と書いてあるもの以外、原則、携帯電話からは繋がらないか、繋がっても料金が発生する可能性があるので、ご注意ください）

- i アメリカンエクスプレス (American Express)
TEL：0-800-908-391（24時間日本語対応）
- ii ビザカード (Visa Card)
TEL：0-800-90-1179（24時間日本語対応）

iii マスターカード (Master)

TEL : 0-800-897-092 (24 時間日本語対応)

iv JCBカード

TEL : 00-800-00090009 (24 時間日本語対応)

コレクトコール : +81-422-40-8122

v UC カード

TEL : 00-800-80058005 (24 時間日本語対応)

vi 三菱 UFJ ニコスカード

TEL : 00-800-02491468 (24 時間日本語対応)

vii ダイナースカード (Diners)

TEL : +81-3-6258-0931 (24 時間対応、コレクトコール可)

(4) 病気になったら

i 緊急の場合

救急車 (S.A.M.U. (Service d'Aide Médicale Urgence)) を呼ぶ場合、電話番号は 15 番 (局番なし) にかけます。S.A.M.U.はフランスの緊急医療援助体制の略で、フランス全土をネットワークで結んでいます。15 番はフランス国内共通電話番号です。救急車には医師が同乗しており救命装置が装備されています。救急車の依頼料金は有料、電話による緊急医療相談は無料です。

ii 薬局

薬局の薬剤師は相談に応じ、医師の処方箋なしで買える範囲の解熱剤、整腸剤、鎮痛剤を処方します。

iii 往診など

往診専門の医療機関は SOS Médecin (電話 04.78.83.51.51)、又は Maison médicale de garde(電話 04.72.33.00.33)です。海外旅行保険などに加入している場合、提携しているアシスタンス会社に電話すると全て日本語でサービスが受けられます。

6 緊急連絡先

機関名	電話番号	住所・備考
在リヨン領事事務所	04 37 47 55 00	131 boulevard de Stalingrad 69100 Villeurbanne
在フランス日本国大使館	01 48 88 62 00	7 avenue Hoche 75008 Paris
在マルセイユ日本国総領事館	04 91 16 81 81	132 boulevard Michelet 13008 Marseille
リヨン1・4区警察署	04 37 26 25 40	19 rue Louis Pradel 69001 Lyon
リヨン2区警察署	04 78 42 26 56	47 rue de la Charité 69002 Lyon
リヨン3・6区警察署	04 72 82 15 00	1 rue St. Jacques 69003 Lyon
リヨン5区警察署	04 72 38 83 50	15 rue des Anges 69005 Lyon
リヨン7・8区警察署	04 72 78 01 40	40 rue Marius Berliet 69008 Lyon
リヨン9区警察署	04 72 85 60 70	29 rue Berjon 69009 Lyon
ヴィルールバンヌ警察署	04 72 69 10 60	225 cours Emile Zola 69100 Villeurbanne
緊急ダイヤル 救急車 (SAMU)	15	
警察	17	
火災・緊急	18	

7 トラブル時のフランス語

【助けを求める表現】

助けて！ Au secours! Aidez-moi! 「オースクー！エデモワ！」

緊急事態だ！ C'est une urgence! 「セテュンヌ ユルジャンス！」

警察を呼んで！ Appelez la police! 「アプレ ラ ポリス！」

火事だ！ Au feu! 「オ フュー！」

消防を呼んで！ Appelez les pompiers! 「アプレ レ ポンピエ！」

救急車を呼んで！ Appelez une ambulance! 「アプレ ユヌ アンビュランス！」

急いで！ Vite! 「ヴィッツ！」

危ない！ Danger! 「ダンジェ！」

気を付けて！ Faites attention! 「フェッ アタンション！」

【盗難に遭った時の表現】

バック(財布・スーツケース・パスポート)を盗まれた。

On m'a volé mon sac (mon portefeuille / ma valise / mon passeport)

「オン マ ヴォレ モン サック (モン ポルトファイユ / マ ヴァリーズ / モン パスポー) 」

泥棒だ！ Au Voleur! 「オ ヴォローフ！」

部屋に泥棒が入った。

Quelqu'un s'est introduit dans ma chambre et a volé mes affaires.

「ケルカン セ アントロデュイ ダン マ シャンブル エ ア ヴォレ メザァフェーフ」

日本語を話す人はいませんか？

Est-ce qu'il y a quelqu'un qui parle japonais ?

「エスキリヤ ケルカン キ パルル ジャポネ？」

【怪我をした人に聞く表現】

大丈夫ですか？ Vous allez bien ? 「ブ ザレ ビヤン？」

どうしたのですか？ Qu'est-ce qui s'est passé ? 「ケスキ セ パッセ？」

心配しないで。 Ne vous inquiétez pas ! 「ヌ ヴー ザンキエテ パ」

救急車が必要ですか？ Avez-vous besoin d'une ambulance ?

「アヴェ ヴ ブゾワン デュヌ アンビュランス？」

【気分・状態を伝える表現】

負傷しました。 Je me suis blessé(e) 「ジュ ム スュイ ブレッセ」

出血しました。 Je saigne 「ジュ セニュ」

動けません。 Je ne peux pas bouger. 「ジュ ヌ プ パ ブジェ」

助けてください。 J'ai besoin d'aide. Aidez-moi s'il vous plaît.

「ジェ ブゾワン デッド。エデ モワ シル ヴ プレ」

病気です。 Je suis malade. 「ジュ スュイ マラッド」

気を失いそうだ。 Je vais m'évanouir. 「ジュ ヴェ メヴァヌイール」

吐きそうだ。 J'ai des nausées. 「ジェ デノーゼ」

ここが痛みます。 C'est ici que j'ai mal. 「セ ティシィ ク ジェ マル」

やけどをした。 Je me suis brûlé(e) 「ジュ ム スュイ ブリュレ」

高熱がある。 J'ai une forte fièvre. 「ジェ ユンヌ フォルト フィエーヴル」

胃が痛い。 J'ai mal à l'estomac. 「ジェ マル ア レストマ」

気分が悪い。 Je me sens mal. 「ジュ ム サン マル」

日本語を話す医者はいますか？ Avez-vous un médecin qui parle japonais ?

「アヴェ ヴ アン メドウサン キ パルル ジャポネ？」

III 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

2015年以降、フランスにおけるテロの脅威は依然として高い状態にあり、2023年10月にはフランス北部パ・ド・カレー県の高校で教師ら数名を殺傷する事件が発生し、同年12月にはパリ市内エッフェル塔周辺の路上において、通行中の外国人等複数名が刃物により殺傷される事件が発生しました。2025年2月には、フランス東部のミュルーズ市の路上で外国人等複数名が刃物により殺傷される事件が発生、2026年3月にはパリ市に所在するバンク・オブ・アメリカ・パリ支店で液体燃料による爆発未遂事件が発生しています。

在リヨン領事事務所の管轄では、2019年5月、リヨン中心街の路上に置かれた荷物が爆発し十数名が負傷するというテロ事件が起きています。

フランス治安当局の発表では、2024年以降、治安当局が未然に防いだテロ事件は16件にも上ります。また、フランス政府はテロ警戒計画（Plan Vigipirate）を3段階中最高の3番目を維持しており、いつどこでテロが発生するか予断を許さない状況にあります。このような情勢を十分に認識し、テロ等に巻き込まれることがないように、海外安全情報及び報道等から、最新の治安・テロ情勢等の情報入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切な安全対策を講じるよう心がけてください。

大規模な事件・事故が発生した場合など、日常生活に甚大な影響を及ぼす可能性もあります。そのような緊急事態に際して、在留邦人の皆様が的確かつ迅速に対応できるよう、最も重要と思われる点を簡潔にまとめました。以下を参考に危機に際しては、落ち着いて行動できるよう心掛けてください。

基本的な心構え・情報の把握

緊急時に最も重要なことは「情報」です。

何処でどのようなことが起きているのか、発生した事態で誰がどのように影響を受けているのか、家族や知人、友人、同僚などの家族の安否情報、この事態にどう対処すれば良いのか等、これらの情報を集め、また、自分や家族の安否情報を関係する人に発信していく必要があります。そのためにはパニックに陥らないよう、予め関係者の連絡先を書いたリストを作るなどの必要があります。また、緊急事態が発生した際には流言飛語（デマ）が飛び交うことが多いので、確実な情報に基づいて行動する冷静さが必要です。

準備（携行品、非常用物資の準備）

食料品等の備蓄

フランスでは、特に大がかりな物品の備蓄は必要ないと思われますが、緊急事態発生時には付近での買い物が困難になる可能性がありますので、食料、飲料水、乾電池、医薬品及び生理用品等を

保管しておくことをお勧めします。

連絡体制の整備（在外公館・家族への通報等）

在留届は提出していますか？

在留届は外国に3か月以上滞在する方が提出することになっています。緊急時の連絡先を把握する資料として役立ち、領事サービスを提供する際の基礎になるものですので、必ずご提出ください。住所や電話番号などの記載事項の変更、帰国や転勤などでフランスを離れる際にも、インターネット上から登録データの変更をお願いします。

- ① フランスに3か月以上滞在される方は、必ず在留届を提出してください。
- ② 緊急事態に備え、家庭や会社、団体などを構成する方は通勤・通学経路、利用交通機関などの情報をお互いに把握してください。また、知り合いや身近の方で緊急時に連絡を取り合うネットワークを作成し、万が一に備えることをお勧めします。

緊急事態が発生した場合は、在留届を提出いただいている方には緊急の領事メールを送信する他、領事事務所ホームページを通じて緊急情報を発出します。

領事事務所ホームページ：https://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

- ③ 緊急時には、混線により携帯電話が使用不可能になることも想定されます。場合によっては、固定電話も不通になることもあり得ます。
- ④ 緊急連絡先などはメモにして常時携帯するようにしてください。携帯電話のメモリーはバッテリーが有効な間しか使用することが出来ません。
- ⑤ 在留届とは別に3ヶ月未満の渡航者向けの「たびレジ」を運用しています。この「たびレジ」に登録することにより、渡航先国の大使館及び総領事館が発出する緊急メールを受け取ることが出来ますので、出張や旅行でフランス国外に行かれる際は、是非ご利用ください。

たびレジ：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

緊急時の行動

冷静

緊急時には、事態の迅速かつ正確な把握が困難なこともあり、パニックに陥りがちです。冷静に落ち着いて、まずは連絡すべきところに第1報を連絡しましょう。

情報の選別

緊急時には様々な情報が飛び交います。その中には事実に反するいい加減な情報もありますので、誤った情報に惑わされないよう、また、流言飛語（デマ）にも十分ご注意ください。

行動

テロ・爆発事件等の緊急事態に遭遇した場合、被害を最小限に抑えるため、次の諸点を心がけられることをお勧めします。

(1) 予防措置

- ① 退避ルートを確認する。
- ② 隠れられる場所を確認する。
- ③ 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。

(2) 対処法

- ① その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- ② 頑丈なものの陰に隠れる。
- ③ 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。
- ④ 安全を確保した後、大使館や総領事館、或いは自宅などに安否の連絡をする。

その他

海外旅行保険への加入

短期滞在（旅行や出張など）の皆様におかれては、海外旅行保険には必ず加入しましょう。海外での医療費は保険が適用されず、要した費用を全額支払う必要がありますので、日本と比較すると非常に高額になるケースが多くあります。十分な補償額の保険に加入してください。

例えば、海外で事故や心臓発作等で、病院の集中治療室を2週間利用し、飛行機で緊急移送されるような場合は、2～4千万円を支払うようなことは珍しくありません。さらに、支払い能力の確認が出来ない場合、入院させてもらえず治療してもらえないこともあります。日本大使館及び総領事館は、病院の支払い保証を行うことは出来ません。

旅行日程のご家族との情報共有

個人で海外旅行する場合、自分の居場所は自分にしかわかりません。旅行先で緊急事態や大規模な事件・事故、自然災害等が発生して巻き込まれた場合に備え、ご家族には、旅行日程や滞在先の連絡先等を必ず出発前に知らせておきましょう。

IV 結語

海外で滞在・生活するにあたって、トラブルに巻き込まれないためには、日頃の情報収集や安全対策を面倒と思わず、真剣に向き合うこと、そして「**自分の身は自分で守る**」という意識を持つことが大切です。

世界各国に設置されている、大使館、総領事館、領事事務所は在留邦人の皆様、短期旅行者の皆様の支援・保護を最も重要な任務の一つとしていますが、この「支援・保護」は皆様の自助努力の上に成り立っていることをご理解いただければ幸いです。

皆様の海外生活の安全とご健勝をお祈り申し上げます。